

学校名 北本市立石戸小学校
所在地 北本市荒井2丁目320番地
電話 048-591-2007

1 本校の概要

本校は、北本市西端に位置し、児童数 279 名の小規模校である。開校 112 年の歴史をもち、埼玉県自然学習センターや日本五大桜の「石戸蒲ザクラ」など、豊かな自然を身近に感じる校区にある。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・言語活動の充実など学力向上に結び付けた取組

(2) 実践の概要

ア 「読書タイム」

毎月曜日（8:20～8:35）読書習慣の形成に向け、朝自習として設定。

- ・座って静かに、「文章で仕立てられた本」を読む。
- ・読む本を事前に決める。（図書室、学級文庫、児童持参の本などから）
- ・月 1 回、条件に合わせて「感想カード」を記入する。
 （条件…六行以上、二段落構成、一段落目「読んだ内容」・二段落目「感想」）



【読書タイムの様子】

【感想カードの記入例
 (中学年)】

イ 「休日読書」

長い文章に触れる・慣れる機会を増やすために、家庭にも協力を依頼し、全校共通に家庭学習の中に「読書」を取り入れることにした。

- ・学年ごとに「目安時間」を示し、「土・日曜等休日の宿題」の一つとして読書に取り組む。

【1日の読書時間の目安】

1年…10分 2年…15分 3年…20分
 4年…25分 5年…30分 6年…35分

- ・文章で仕立てられた本を読む。主に高学年では「新聞を読む」でも良い。
- ・『読書カード』に「書名・読書時間・一言感想」を記入し、保護者と担任双方で確認する。

【読書カード（高学年）の記入例】

ウ 新聞の活用

NIE 研究実践校として、新聞を教材として積極的に活用する。「文字・活字離れ」の改善、新聞への興味・関心の喚起に向け、学習への新聞の活用を通して「読解力」を育成する。

- ・朝の「ドリルタイム」に新聞を活用したワークシートに取り組む。
- ・高学年では、NIEの一環として「新聞スクラップ」を行い、新聞に触れる機会の増設を工夫する。
- ・高学年では、前述「休日読書」の読み物として「新聞」も勧めている。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・「読書タイム」では、落ち着いた雰囲気の中で、読書習慣が形成され、本を持参したり、図書室で借りたりと、読書への関心を高める児童が増えている。
- ・宿題として取り組むことが、家庭での読書習慣をつくる契機となった。
- ・学習において新聞を活用することで、新聞に触れ、それらへの興味・関心の喚起につながった。

(2) 課題

- ・時間内で「感想カード」の記入ができない児童には「読む」「書く」両面の指導が必要である。
- ・「休日読書」では、「目安時間」に満たなかったり、本の内容が学年や発達の段階に即していなかったりといった状況が見られる。「読む本」の選び方も指導しつつ、自主的な読書活動に繋げていく。
- ・高学年だけでなく他学年にも、新聞を活用した学習を広げていく。